

# 令和6年度 第2回 図書館協議会 会議録

## 1 日時

令和6年11月29日（金）午後2時30分～午後3時30分

## 2 場所

ラトブ4階 いわき総合図書館学習室

## 3 出席者

### (1) 委員

委員長 小野 順一

副委員長 柳田 明美

委員 柴田 達八、渡部 純子、塩 陽子、吉村 忠晴、有賀 史人、  
長岡 智子、青山 岳志

（欠席者）草野 祐香利

### (2) 事務局

ア いわき総合図書館

矢吹館長、黒羽副館長、秋山副館長、片寄主任主査、小林主任主査、  
桑原総務管理係長、横田情報資料係長

イ 地区図書館

小名浜図書館長、勿来図書館長、常磐図書館長、内郷図書館副館長、  
四倉図書館副館長

## 4 議事

### (1) 案件

ア 第四期いわき市子ども読書活動推進計画の数値目標の現状について

イ 令和6年度教育委員会の事務の点検及び評価対象事業の選定について

ウ 図書館協議会委員の改選について

エ 図書館情報システム（総合システム）関連の機器更新について

オ その他

（ア）令和6年度12月以降の図書館事業について

－ 会議内容（司会進行：黒羽副館長） －

1 開会

（委員 10 名中 9 名が出席しており、いわき市立図書館協議会規則第 4 条第 1 項の規定による半数以上の出席があり、会議が成立した。）

2 いわき総合図書館長あいさつ 館長

3 委員長あいさつ 小野委員長

4 議事

いわき市立図書館協議会規則第 2 条第 3 項の規定により、小野委員長が議長となり、会議を進行した。

(1) 案件

ア 第四期いわき市子ども読書活動推進計画の数値目標の現状について

事務局より、会議資料 3 頁に基づき説明した。

数値目標の現状では、令和 4 年度と比較して各項目とも大きな変化はなく、横ばいとなっていること、「No.2 1 か月に 1 冊も読まなかった児童・生徒の割合」及び「No.3 1 か月の平均読書冊数」の数値から、学年が上がるにつれ読書から離れる傾向があること、各項目の現状値を注視しながら、図書館広報誌や『この本よんだ？』などを通じた読書のきっかけづくりに努めていくことを説明した。（情報資料係長）

（意見、質疑応答）

渡部委員：「No.2 1 か月に 1 冊も読まなかった児童・生徒の割合」について、対象に高校生男子、高校生女子とあるが、令和 6 年度実施の「高校生の読書アンケート」（福島県高等学校司書研修会）から性別を廃止しているので留意願いたい。

事務局：承知した。

イ 令和 6 年度教育委員会の事務の点検及び評価対象事業の選定について

事務局より、会議資料 4～5 頁に基づき説明した。

令和 6 年度の対象事業 3 つのうち、総合図書館の「図書館利用の促進に係る取組み」が選定されたこと、各評価指標や計画値について説明した。（総務管理係長）

**(意見、質疑応答)**

吉村委員：点検及び評価において、図書館事業が選定されるのは何年ぶりか。

事務局：総合図書館では、令和4年度に電子図書館システム事業が選定されている。

吉村委員：定期的に実施されるものなのか。

事務局：教育委員会では毎年度実施しているが、継続事業を除き対象事業は年度ごとに選定される。

**ウ 図書館協議会委員の改選について**

事務局より、会議資料6頁に基づき、委員推薦及び公募委員選考のスケジュール等について説明した。(総務管理係長)

**エ 図書館情報システム（総合システム）関連の機器更新について**

事務局より、会議資料7頁に基づき、実施目的や更新時期（令和7年2月の3週間程度）等について説明した。(小林主任主査)

**(意見、質疑応答)**

小野委員長：今回の機器更新とは直接関係ないが、例えば利用者サービスの利便性を高めるにあたっての課題などはあるのか。

事務局：将来的な図書館情報システムの刷新にあたっては、業務系ではいくつか課題を把握しているが、利用者サービス系の課題については、今後、情報収集をしていく必要がある。

小野委員長：AIの活用やロボット化など、技術革新が進んでいる分野なので、将来的なシステム刷新に向けて情報収集しておくといいのではないか。

**オ その他**

**(ア) 令和6年度12月以降の図書館事業について**

事務局より、会議資料8頁に基づき説明した。(情報資料係長)

**(意見、質疑応答)**

渡部委員：「高校図書委員おすすめ本展示」の展示作品の写真撮影について、撮影者の範囲について教えてほしい。

事務局：昨年度同様、本人とその家族、学校関係者は撮影可能としている。撮影時にはカウンターに声掛け願いたい。

※ 議事はすべて終了したが、委員長より、各委員から意見を求める発言があった。

柴田委員：今月、福島県の学校図書館研究大会が平田村で開催された。本市からは、田人中学校が実践発表を行い、市立図書館からの調べ学習用図書の貸出しの取り組みや、電子図書館の出前講座について報告した。現在、学校ではタブレットの活用が進んでおり、電子図書館も活用していきたいと考えている。

また、他市では「ぽけっと図書館」という自分の学校図書館の図書を検索できるアプリを活用し、子どもたちが本と出会うきっかけづくりとしているところもあるようだ。特に小学生は、読書のきっかけや本の入手方法が学校図書館である割合が高いので、こういったアプリは有効だと思う。

なお、学校図書館研究大会が4年後にいわき市で開催される予定なので、引き続き市立図書館と連携していきたい。

渡部委員：11月19日にラトブの6階にて、高校図書委員の委員会活動である「いわき地区図書委員連合会研修会」を開催した。今回は、作家の四季大雅氏を招いて読書会を開催し、終了後、総合図書館を利用した生徒もいたようだ。今後もこういった機会を活用して、高校生の図書館利用に繋げていきたい。

塩委員：子どもたちの読書活動推進には、保護者への働きかけも大切だと思う。例えば、薄磯にある私立幼稚園の附属施設の絵本美術館と連携して、子どもだけでなく、大人にも絵本の素晴らしさを伝えるのもひとつの方法ではないか。

吉村委員：会議前に館内の企画や展示を拝見したが、いつも素晴らしいと感じている。システム機器更新の質疑応答のなかでもあったが、人でなくてもできる業務はAIやロボットなどに任せて、企画や展示など人の力が必要なものに注力できるようになればいいのではないか。

有賀委員：最近、自治体史の編纂に関わる機会があり、執筆に必要な参考資料がデジタルデータで提供されることが多くなっている。確かにデータ化は便利だが、生資料に触れる機会も大切だと思うので、今回の四倉の企画展な

どで現物資料を展示することはよいことだと感じている。

長岡委員：音訳ボランティアをしている。会議のなかで子どもの読書の現状について報告があったが、視覚に障害があるお子さんたちも、電子図書館の音声読み上げ機能を活用して活字に触れる機会が増えていくことを期待している。引き続き、声の奉仕グループとしても協力していきたい。

青山委員：自主財源の確保のため雑誌スポンサー制度を導入している図書館がある、という新聞記事を目にした。また、福島市の図書館では「1度も貸し出されていない本」というテーマで図書展示がされていたり、どの図書館も利用促進の工夫をしていると感じた。

柳田副委員長：子どもの小学校の図書ボランティアをきっかけに、読み聞かせ活動を続けているが、それが少しずつ実っていると感じている。また、支援学校での読み聞かせでは点字絵本も活用している。

「手作り絵本展」は家族で参加したことがあるが、とてもよい取組みなので、子どもだけではなく大人に対しても広報などもっと工夫するとよいと思う。

小野委員長：いわき駅前の再開発に伴い多くの遺構が出ているようで、例えば「図書館周辺の遺構」などを今後の企画展のテーマにしても面白いのではないかなと思う。

## 5 その他

事務局より、次回の開催予定（3月）について事務連絡を行った。

## 6 閉会

※閉会后、自動出納書庫の見学を実施した。

（参加者：図書館協議会委員9名、地区図書館長等4名）